

令和7年度 第2回学校運営協議会【会議録（概要）】

1 開催日時 令和8年1月29日（木）午後3時45分～午後5時05分

2 会場 南昌みらい高等学校 第1会議室

3 出席者

《学校運営協議会委員》

上野光久、内城寛子、内山里也子、須川和紀、鈴木睦、高橋梨佳、田口雅敏、田村英典、三浦仁、山崎隆司

《本校》

校長：菊池勝彦、副校長：谷地信治、山田知弘、事務長：浅沼佳子

みらいデザイン課主任：吉田由岐恵、総務課主任：三浦天豪、教務課主任：中村崇、生徒指導課主任：長谷川仁、進路指導課主任：松本真理、保健厚生課主任：齋藤弥生、教育相談課主任：廣瀬解子、文理学系主任：戸来正子、芸術学系主任：佐藤由梨、外国語学系主任：高橋新哉、スポーツ科学学系：相馬高志

【次第】

1 開会

2 校長あいさつ

日ごろから本校の教育活動に御理解をいただき感謝申し上げます。統合に向け、長い時間をかけ検討や準備を進めたうえで開校を迎えたが、いざ学校が始まると多岐にわたる問題が見え隠れし、毎日イレギュラーなことに向き合う日々が続いた。

学校の環境は大きく変化しているが、生徒の学びと成長を確かなものとするためには、地域、保護者、そして学校がしっかりと連携し、生徒の心に寄り添い、支える関係が何よりも重要であると認識している。

委員の皆様には、それぞれの立場から学校に対する忌憚のない御意見、御提言をいただきたい。

3 学校概況説明等

（1）学校概況について

副校長から説明

【委員】

- ・ スクールカウンセラーについて、県からの派遣1名と学校でお願いしている2名の3名で対応しているとのことだが、スクールカウンセラーが毎日学校にいる状況にあるのか。

【教育相談課主任】

- ・ 県からの派遣1名と学校でお願いしているスクールカウンセラーのうち1名は月2回、もう1名は月に1～2回来校し対応いただいている。

【委員】

- ・ スクールカウンセラーとの面談の申し込みをどのように行っているのか。

【教育相談課主任】

- ・ 相談を受けた担任や保健室で生徒の対応をしている養護教諭等を通じて、いつでも申し込める状況となっている。生徒には、年度当初に申し込み方法について周知しており、

各教室に申込用紙を配置してある。

【委員】

- ・ 生徒がスクールカウンセラーと面談をしていることを、周囲の生徒は気付かないのか。

【教育相談課主任】

- ・ 周囲の生徒は気付いていない。

【委員】

- ・ 周囲の生徒が気付かない状況であることは大切なことであると思う。

(2) 学校評価について

副校長から説明

【委員】

- ・ 達成指標の設定の仕方と具体的な目標値の設定の仕方について教えてほしい。

【校長】

- ・ 達成指標と具体的な目標値については、昨年度の旧盛岡南高校及び旧不来方高校のものを参考としながら設定したものである。

【委員】

- ・ 中には、達成状況が 82.2%であるにも関わらず、目標を 85%と設定しているために達成状況が「×」となっているものもあるが、82.2%は十分高い数字であるように思う。目標をあまり高く設定してしまうと自身の首を絞めかねないのではないかと感じた。

【委員】

- ・ 「人が困っているときは進んで助けようと思う」と答えた生徒の割合が 98%となっていることは素晴らしいことであると感じている。実際、電車に乗っている時、自分に対し南昌みらい高校の生徒がさりげなく親切な行動をとってくれたことがあり、その出来事が強く印象に残っている。

【委員】

- ・ ①学校評価アンケートの中で、生徒と教職員との評価にギャップがある項目が見受けられるが、その原因をどのように捉えているのか。②学校評価について、昨年度と比較した場合に、どのような傾向が見られるのか。③家庭学習に関する質問に対しての評価の数値が低いものとなっているが、実際の状況はどうなのか。以上の3点を教えてもらいたい。

【副校長】

- ・ ①について、教職員は理想を高く持つ者も多く、現状に対し厳しい評価をする傾向にあることが、評価のギャップの一因と考えられる。②について、昨年度の資料を持ち合わせていないため、具体的傾向について、この場で申し上げることはできない。

【教務課主任】

- ・ ③について、家庭学習に取り組んでいる生徒は少ないのが現状である。

【委員】

- ・ これからは「生徒に寄り添った、生徒を理解する教育」に重点を置くことが求められるが、この点について、高校側はどのように考えているのか。

【副校長】

- ・ 生徒に寄り添い、生徒を理解することは重要であると認識している。このことは、これまでの教育の方法を否定するものではなく、生徒と接する際、生徒に寄り添いながらも、時に厳しく指導することが必要となる場面もあるものと思う。どちらかに偏るのではなく、生徒個々の特性や場面に応じてバランスを取りながら教育を行うという視点も大切であると思う。

【委員】

- ・ 学校評価アンケートはいつごろ実施したのか。

【副校長】

- ・ 昨年の12月に実施したものである。

【委員】

- ・ 同じ質問でも、実施時期によって、結果が変わる可能性があると思うがどうか。

【副校長】

- ・ 学校生活をある程度の期間過ごしたうえでアンケートを実施する必要がある。集計等の関係から、あまりに遅い時期の実施も難しいことから、12月に実施しており、多くの学校もこの時期に行っているものと思う。

【委員】

- ・ 6月と12月の2回実施し、結果を比較する学校もある。

4 意見交換（本校に対する意見・提案等）

【委員】

- ・ 体育館建設延期に伴い、体育の授業の際、旧盛岡南高校の体育館までバスで移動していると聞いているが、今後の見通しはどのようになっているのか。

【事務長】

- ・ 来年度も、南昌みらい高校の体育館だけでは、すべての授業を賄うことができないため、十数時間分の授業を旧盛岡南高校の体育館を使用し実施することとなる。その際は、バスを利用した移動となるが、この状況は、現1年生が3年生になる令和9年度も続くこととなる。なお、部活動においても、旧盛岡南高校の体育館を使用しており、生徒の移動のためバスを運行している。

【委員】

- ・ 矢巾町は友好都市であるアメリカのミシガン州フリモント町と交流を持っており、国際交流事業として生徒の派遣を行っている。この事業について、不來方高校時代と比べ、応募する生徒が少ないと感じている。新たな基金の設立の動きもあり、南昌みらい高校の多くの生徒に参加してもらいたい。

【委員】

- ・ 先生方の日々の指導に感謝している。まず、日々の授業についていけない生徒に対する配慮をお願いしたい。また、部活動において、指導者（顧問）と生徒との間で考え方や意識の違い等がある場合には、考え方や意識の統一に向けての配慮をお願いしたい。学校生活の様々な場面において配慮をしてもらいながら、生徒とともに歩んでいただくようお願いしたい。

【委員】

- ・ 充実した学校生活を送っていると感じている生徒の割合や先生方が悩みを聞くなど相談に乗ってくれると感じている生徒の割合が高いことはとても良いことであり、このような状況が続いてほしいと思う。
- ・ みらいデザイン課の資料に「ICTの機能を十分に活用しているとは言い難い状況である」とあるが、この点について具体的に教えてほしい。

【みらいデザイン課主任】

- ・ 授業を行う環境や教科の特性にもよるが、教員の間で活用能力に差があり、すべての教員が生徒個人で所有している端末をフルに活用している状況にないということを表したものである。

【委員】

- ・ 教務課の資料の中に「全職員がリモート授業に対応できるような、研修の機会をお願いしたい」との記載があるが、リモート授業（オンライン授業）の実施状況についてお聞かせ願いたい。

【教務課主任】

- ・ 全体的に不登校生徒や病気等により長期欠席している生徒に対応するため、授業の中継などを実施しなければならないとの話題が出ている。一方で、授業の様子を中継しても黒板の文字等が見えないなど多くの課題があり、実施に向けては多くのハードルがあると認識している。

【委員】

- ・ 自分の経験から、授業のスライドをオンラインで見せることは可能であると思う。この点はメリットとなり得るものであり、不登校生徒等に限らず、実際に授業を受けた生徒の振り返りの機会にもなると思う。

【委員】

- ・ 「南昌みらい高校」という校名がかなり浸透してきていると感じている。かつて、盛岡南高校を訪ねた際、多くの生徒が挨拶をしてくれ、明るい気持ちになったことを鮮明に覚えている。両校の伝統を引き継ぎながら、更なる発展を期待している。

【委員】

- ・ 今年度、矢巾町職員として採用となった旧不来方高校の卒業生の頑張りを見張るものがある。近年、矢巾町以外からの職員採用が多くなっている。地元である南昌みらい高校から多くの生徒が矢巾町職員募集に応募してもらいたい。

【委員】

- ・ 家庭学習の習慣は、小・中学校で身につけるべきものであり、そのような生徒を送ることができるようにしていきたい。
- ・ 南昌みらい高校には希望をもって入学している生徒が多いと感じている。中学校では部活動における無所属の割合が高くなっているが、南昌みらい高校では部活動に所属している生徒の割合が高いことに驚いており、非常に良いことであると思う。

【委員】

- ・ 旧盛岡南高校と旧不来方高校の良いところを合わせた学校を目指すという考え方ではなく、新しい学校を作るという考え方で進めた方が良いと思う。管理職には、教職員の

体調管理やライフワークバランス等、これまで以上に様子をしっかりと見てもらい、教職員が個々の力を十分に発揮し活躍できるような環境づくりに努めてもらいたい。

- ・ 新しい学校づくりに協力したいという気持ちを持っており、お手伝いできることがあれば言ってほしい。

【委員】

- ・ 統合初年度で様々な課題等があるものと思うが、充実した高校生活を送っていると答えた生徒の割合が高い状況は非常に良いことであると感じている。
- ・ 達成指標の具体的な数値の設定について、工夫する必要があるように感じている。学校生活において、理想として「0%」を目指したいものもあるが、実際に「0%」とすることが難しいものも多数ある。「0%」とする理想に向け、どのように対応したのか、その「対応率」を目標として設定することも考えられるのではないかな。
- ・ 家庭学習については、小・中学校段階での自主学習の定着が必要であり重要と感じている。高校入学後も自主的に学習に取り組めるよう、高校側から小・中学校側へ提言することがあっても良いのではないかな。

【委員】

- ・ 教育課程が13種類もあることに驚きを感じた。統合により様々な課題があるものと思うが、統合初年度に充実した高校生活を送っていると答えた生徒が9割を超えている状況に驚いている。この状況を維持してもらいたい。
- ・ 学校評価について、1つの項目に複数の達成指標を設定せず、1つの項目に対し達成指標を1つとすることも考えられるのではないかな。
- ・ 今回の学校運営協議会には「大人」しか参加していない。「大人」が「大人」に対して説明するだけでなく、生徒が実績の報告や研究の成果などを発表する機会があっても良いのではないかな。
- ・ この会には、様々な立場の方が委員として参加しており、困りごと等がある場合には学校側から委員の方々に相談したり、アドバイスをもらうことがあっても良いのではないかな。

5 その他

【委員】

- ・ 学校評価の中の家庭学習に関わることについて、部活動などに取り組んでいると、実際、家庭学習の時間を確保するのは難しいのではないかなと思う。家庭学習をアンケートの項目として入れるのが適当なのか一度検討する必要があるのではないかな。

【委員】

- ・ 統合後、これまでに進路変更をした生徒はいたのかな。

【副校長】

- ・ 今年度、進路変更をした生徒は複数いるが、そのほとんどは転学である。

【委員】

- ・ 今後の学校経営において、地域に定住する人材を育てるという視点を持つことも大切なことと考える。

6 閉会